

第918回

## 定例教育委員会会議録

日 時 令和5年9月26日（火）15：00～

場 所 益田市立市民学習センター 202号室

益田市教育委員会

## 第918回 教育委員会定例会

招集年月日 令和5年9月26日（火）15：00～

招集場所 益田市立市民学習センター202号室

### 議事日程

第1 会議録の承認について

第2 教育長報告

第3 議題

報第23号 令和5年度（令和4年度事業分）益田市教育委員会点検評価報告書について

報第24号 「令和5年度全国学力・学習状況調査の結果」について

第4 その他

（1）その他

出席者

教育委員会

教 育 長	高 市 和 則
教 育 委 員	梅 津 富美子
教 育 委 員	大 庭 隆 志
教 育 委 員	齋 藤 哲 瑯
教 育 委 員	原 田 笑

事務局職員

教 育 部 長	長 嶺 勝 良
教 育 総 務 課 長	志 田 原 涉
協働のひとづくり推進課長	岡 崎 健 次
文 化 財 課 長	石 田 公
学 校 教 育 課 参 事	杉 原 貴 宏
匹 見 分 室 長	齋 藤 一 臣
美 都 分 室 長	田 中 一 史
教 育 総 務 課 長 補 佐	齋 藤 勝 義
教 育 総 務 課 主 事	三 浦 菜々子

高市教育長           ただいまより第918回益田市教育委員会定例会を開催いたします。  
す。  
それでは、議事に入らせていただきます。

## 第1 会議録の承認

高市教育長           会議録の承認につきましては、先ほどご承認いただきました。

## 第2 教育長報告

高市教育長           次に進みまして、第2の教育長報告でございます。前回の教育委員会からの活動状況です。

まず、8月31日でございます。こちら、匹見小・中学校一日訪問をしてきたところです。

続きまして、9月4日に益田中学校を訪問したところでございます。

9月6日から10日の間ですけれども、東京に出張してまいりました。1つは教育委員会から文部科学省のほうに行政調査員と研修生ということで職員を文部科学省のほうに派遣をして、そこで研修をしてもらうということになっております。ですので、その職員の状況を見に行くために東京に行ってまいりました。

また、そのついでといたしまして、足立区の教育委員会のほうを訪問させていただきました。こちら、訪問の理由といたしましては、足立区では足立はばたき塾ということで、公営の塾を実施されているところでございます。そういったところ、我が市の教育行政にも参考になる部分が多いので見学をしてきたところでございます。こちらにつきましては、中学校の3年生を対象としてやっているということで、実際の運営に関しましては塾を運営している業者に委託し、いわゆる塾講師のような方が授業をする形で行われているところでございました。非常に多くの子供たちが熱心に授業を受けているということで、基本は土曜日ですけれども、英語と数学を基本としてやっているということでした。実はそれぞれ各教科100分ずつやるということで、なかなか中学校の3年生で100分間の授業を休みなくぶっ通しで授業を二コマやるというのはなかなか大変なところだろうと思うところですけど、中学校3年生がしっかり出てきて学習をしているという状況を拝見させていただきました。そういったところも踏まえまして、今後我々教育行政で参考にできるところを参考にさせていただきつつ、教育行政の充実を図ってまいり

たいと考えております。

続きまして、11日でございます。こちら、テラテクノロジー株式会社様から寄附金等を頂いております。それに対しまして市として感謝状を贈呈したというところでございます。こちら、ご寄附を頂いているのですが、一部教育に使ってほしいという部分でも寄附を頂いております。我が市においては小規模の小学校が多いので小規模校同士の交流活動に係る経費というところに頂いた寄附金を使わせていただいているというところでございます。

続きまして、その後ですけれども、消費税に関するクリアファイルの贈呈ということで、益田間税会様からクリアファイルを頂いたところでございます。こちらはちょうど今年10月からですけれどもインボイス制度等が始まってくるということで、消費税に関する関心も社会的に高まってきているところでございます。そういった中で中学生を対象にクリアファイル、消費税ってというのはどういうものかっていうことをプリントされているクリアファイルを頂きました。

続きまして、12日、13日でございます。益田市議会の臨時会がございました。こちらは先ほど市議会議員の改選がございましたので、それに関する事ということで議会が開催されたところでございます。

続きまして、15日でございます。こちらは昨年12月にお亡くなりになりました田原正居様に対しまして益田市名誉市民の称号を贈呈するということが開催されたところでございます。田原様につきましては、益田市の議会の議員、また県議会議員で議長もされているというところから、今回名誉市民の称号を贈呈するに至ったというところでございます。

続きまして、20日でございます。益田市の定例議会、9月の定例議会が開催をされているところでございます。

私からは報告としては以上でございます。続きまして、この間ご寄附、ご寄贈いただいたことのご紹介をさせていただきます。

先ほどもご紹介させていただきましたけれども、益田間税会様からクリアファイルを、また梅寿会様から小中学校施設整備基金に対しましてご寄附を頂きました。また、先ほどご紹介をいたしました、テラテクノロジー株式会社様から小規模合同学習実施事業に対しましてご寄附を頂きました。この場でご紹介をさせていただきます。今回のご厚意に対しまして厚く御礼を申し上げる次第でございます。

私からの報告は以上でございます。

教育委員

それでは、この件についてよろしいでしょうか。  
=全員了承=

### 第3 議題

#### ○報第23号 令和5年度（令和4年度事業分）益田市教育委員会点検評価報告書 について

高市教育長

本日は、2件の報告案件がございます。

まず初めに報第23号令和5年度（令和4年度事業分）益田市教育委員会点検評価報告書についてから進めさせていただければと思います。

それでは、事務局から説明をお願いいたします。

志田原課長

益田市教育委員会点検評価報告書につきましては、5月と6月の定例教育委員会の中で教育委員の皆さんにご確認いただいたところがございます。今年度につきましては、この報告書の2ページになりますが、2ページの下のところで開催状況ということで7月25日と8月18日の2回開催いたしました。この外部評価委員においても、いろいろとご意見をいただいたというところでは、

この4名の外部委員さんからいただいた評価と意見につきましては、15ページから記載しております。特に今回の委員会で意見があったところにつきましては、やはり教員の超過勤務時間が増えている状況から、学校の働き方改革への早急な着手と教職員のメンタルヘルスの開拓等、そういった意見をいただいたというところでは、また、学力向上とメディア等の接触時間の短縮に向けた取組につきましては、当市の重要課題としましてしっかり取組を進めていただきたいと指摘を受けました。委員さんのほうに事前にお配りしている中で確認していただいておりますので、内容については割愛させていただきたいと思っております。

資料として、資料1、資料2、資料3というところをつけておりますが、資料3につきましては益田市の教育の概要というところで、益田市の基本的な教育のデータや教育状況というものを載せております。ほかの内容等をご確認いただければと思います。

説明は以上になります。

高市教育長

ありがとうございます。

では、本件につきましてご質問、ご意見等ございましたらお願いをいたします。

大庭委員

2点ほどお願いしたいなと思います。

1点は、来年度の令和5年度の益田市教育委員会事務事業別点

検・評価シートというので資料が今あるかと思えますけども、今年度で達成する評価と進捗率評価が終わりますよね。それで新たな評価をやるわけですけども、その前に新しい令和5年度の評価シートにあります評価対象事業目標に対する評価点及び自己評価の出し方、これについて整理をする必要があると思えます。評価の仕方は変わりますので、どういう基準でこの評価にしたのかというような説明して、今の進捗率や達成率が分かるようなのがありましたが、ああいう形のシートが必要じゃないかなという意見が1点あります。これをぜひ次年度は添付する必要があると思えますので、よろしくお願ひします。

それから2点目ですけども、2点目は資料1の基本データのところになると思うんですけども、これの12ページ、13ページ、ここに令和5年度当初の益田市一般会計予算額（教育費）というのがありまして、数字が違っている部分があるように思えますので、確認してください。

それは、まず12ページ、この表の中の下から3番目の枠ですけども、雑入という項目があるかと思えますけども、あそこの令和5年度は金額が1,393万5,000円ということですけども、令和4年度は3,396万3,000円になっています。要するに令和4年度よりも令和5年度は減っているわけですから、△のマークをつけて、どれくらい減っているかといいますと、2,002万8,000円じゃないかと思えます。かなり額が違いますので、それをぜひ訂正をしていただけたらなと思えます。

それからもう一点、13ページ、これは一番下の一般会計歳出総額というところがありますけれども、その下が一般会計総額に占める教育費の割合とありますけども、その上の枠です。一般会計歳出総額、ここが令和5年度はこれが263億9,500万です。令和4年度は266億3,100万です。そうすると、令和5年度は額が減っているわけです。ですから、これはやっぱり△マークをつけて、どのくらい減っているかといいますと、2億3,600万円減っていますので、数字をぜひ直していただきたいなと思えます。

以上です。

志田原課長

ご指摘ありがとうございます。まず、第1点目の令和5年度の点検評価シートにおいて評価の方法等っていうところでございます。こちらは来年度のところでしっかり明記して、それに沿って点検評価をしていきたいと思っております。

2点目の資料のほうで、12ページ、13ページのところの△の比較のところで大変申し訳ございません。誤りでございます。速や

かに訂正をさせていただきたいと思います。ご指摘ありがとうございます。

齋藤委員

本文の点検評価の概要の3ページです。ここは重点項目1の学力の育成を支えるための云々とある⑤番目のところですが、高専は明記されないのでしょうか。島根大学は書かれています、松江高専は書かれていません。

それから、2点目は、これは来年度に向けてということで申し上げたいのですが、項目と中身が合致していないところが気になります。例えばページ12の3のふるさと教育の推進とありますが、載っているのは学校給食だけです。学校給食もちろんふるさと教育の一環にはなると思いますが、益田市教育委員会では「ふるさと教育」はこれしかやってないのかと感じます。

それから、同じページの4番のところ。これもそうですが、キャリア教育・起業家教育による人材の育成となっていますけど、起業家教育に関するものは全く何も入っていません。来年度に向かってもう一回検討いただいたらいいかなと思います。

以上です。

志田原課長

最初、3ページのところの⑤番のところに松江高専が入っていないがどうかというところがございます。こちらについては一応この内容の中で島根大学、市内4高校等の中で含まれるっていうような意味合いで解釈しております、実際としては令和3年度のときに令和4年度の事業を決めており、このとき新年度の予算で松江高専と具体的な計画になっていないということもありましたので、実際の取組の中ではこういった取組というところで明記しています。

齋藤委員

令和4年度には、松江高専は入ってなかったのですか。

志田原課長

令和4年度は入っています。

令和3年度の評価点検のときに令和4年度のこの内容を出しますのでこういった形になっています。

齋藤委員

令和4年度の事業報告だから、協力したのに島根大学だけ入っていて、松江高専からすると、なぜ入れてくれないのかと思うと思います。やっぱり入れていたほうが良いと思います。

志田原課長

そこはまた担当課のほうで、議論いたします。

齋藤委員

せっかく協力いただいているので配慮が必要かと思えます。

志田原課長

その次の、3番と4番というところで、これについては以前からそういった内容の質問でございますので、令和5年度から総合振興計画にのっとった目標ということで、その辺を考慮して検討していきたいと考えております。

高市教育長

ありがとうございます。

教育委員

それでは、この件についてよろしいでしょうか。  
=全員了承=

○報第24号 「令和5年度全国学力・学習状況調査の結果」について

高市教育長

続きまして報第24号 「令和5年度全国学力・学習状況調査の結果」についてです。

それでは、事務局から説明をお願いいたします。

杉原参事

それでは、令和5年度学力調査結果について概要を説明させていただきます。

1ページをご覧ください。

今年度は4月18日の火曜日、小学校6年生、中学校3年生を対象に全国学力・学習状況調査を行いました。小学校6年生については国語と算数と質問紙、それから中学校3年生は国語、数学、英語と質問紙ということになっています。

今年度から中学校3年生の話すことに関する問題については、タブレット端末を活用した取組になっておりまして、記述等ではございません。それに併せて公表についてというところで、話すことが新しくそういった取組になるというので、今回に関しては、公表は行わないということになっておりますので、今回の概要には載せておりません。

それでは、2ページをご覧ください。

2ページの一番初めが小学校6年生、中学校3年生全体の結果の概要になっております。小学校6年生国語、算数、中学校3年生国語、数学、英語、全ての教科において県及び全国平均よりも下回っている結果となっております。

各教科の状況ですが、同じページ、2ページの下部分が小学校6年生の国語になっています。教科の総合、それから内容面を見ましても、県、全国から下回っている結果となっております。どういったもので全国と差があるかといいますと、やはり例年ありますがさまざまな資料の中から自分の考えを条件に合わせて書く、例えば何文字以上何文字以内、それから問題点の解決方法について資料から抜き出して書く、そういった条件をつけて自分の考えを述べるというところは少し苦手になっているという結果が出ております。

それから、例えば運動の効果、それから種類みたいなところが書かれている資料の中で、その資料1と2にどういった内容が書かれていますかという質問、あるいは効果や種類、回数や場所、場所や種類といったことの選択肢で間違った解答が少し多くなっていると

ころが見られます。

続きまして、小学校6年生の算数です。3ページをご覧ください。

これも領域、それから教科総合全てにおいて県、全国を下回っている結果となっております。顕著な課題としましては、以前丸山知事も申しましたが、椅子4脚の重さを量ると7キログラム、この椅子48脚の重さは何キログラムですかという比例を求める、もしくは単位量当たり、1脚当たりの重さを求めてから全体を求めるというような解答の仕方になりますが、これを式や言葉を使って書きましようとしたところ、これは全国も県もかなり低い得点でありましたが、それをやや下回る結果というところでした。

それから、全体的に先ほどの国語と同じように自分の考えを式とか言葉で述べるというところに少し弱みがございます。特に120センチメートルの幅のファイルの棚に1.4センチ、1.6センチ、2センチのファイルを学級の人数23人分、120センチメートルの中に収まるかどうかといったところをどのように式として書くのかというところに少し苦手の意識がありました。

それから、例年ありますが割合についてのところも少し課題になっています。今回は週に1回以上運動している人の割合が約30%、この30%になるものを下のアからオの中から2つ選んで答えましようというところですが、30%、3割になる記述を中から選べられるか、それから表の中に複数の情報が入っているものから正しく情報を抜き出せというところに少し苦手さが見られました。

続きまして、中学校3年生の国語です。4ページをご覧ください。

中学校3年生国語も教科総合、内容それぞれにおいて県、全国平均をちょっと下回っている結果となっております。苦手になっているところは、小学校と同じような傾向で、やはり自分の考えをある条件に合わせて述べるというところは苦手になっていると思います。それから、先ほども小学校でありましたが、その書かれている文章を要約する、簡単な言葉で表す、先ほど小学校でも同じようなものがございましたが、そういったところはやはり苦手になっていることとなっております。

続きまして、5ページをご覧ください。

今度は中学校3年生数学になっています。これも教科総合、それから領域について、全国、県それぞれ下回っている状況になっています。特に苦手になっているところは、数字が幾つかあってその中から自然数を全て選びなさいというところで、マイナス5だったり小数があったりというところから自然数だけを選ぶという問題ですけども、ゼロを自然数の中に入れていたという解答が多くて、こ

ことができているというところが上げられます。

それから、これも小学校と同じですけども、自分の考えを式と言葉で表して書くというところはやはり苦手になっていると思われます。

それから、図形の証明のところも少し課題が見られた分野です。

続きまして、中学校3年生英語でございます。6ページをご覧ください。

これも教科総合、領域共に県、全国を下回っているという結果になっております。先ほどありました話すことについてはここでは公表しないということになっているので、標記しておりません。

その中で苦手になっているところというところでは、リスニングの問題で買物の学習で絵を選択する問題ですが、どういう商品を買ったかっていう英文が流れて、最後にビッグワンっていう言葉を述べて終わる問題でした。どういった絵があるかといいますと、星が1個大きく描かれているものと、星が小さく描かれているものと、かばんの小さいものと大きいものがある、実際このビッグワンっていうのは大きいバッグっていう意味のビッグワンでしたが、これを1つの大きな星と捉えて、そちらを選択している児童がとても多かったです。

それから、同じリスニングの問題で、よく電話の案内があって、何とかの人は1を、何とかの人は2を押してくださいという選択で、自分が傘を忘れたことに気づいて、その場合どの番号を押すかというところでも誤って答えるというところがございました。

それから、全体的に記述を非常に苦手になっていることと、あと、例えば会話の中に出てきた単語を未来形や疑問形にするという設問に対して、正しく書き換えられないところが見られました。

教科については以上で、7ページ以降は質問紙の結果についてのものです。

学校に行くのを楽しいと思えますか、それから自分にはよいところがありますか、それから話合い活動で自分の考えを深めたり広げたりできていますかといったところは例年とほぼ変わらない数字が出ており、8割程度の結果になっております。

8ページは、国語の授業の内容はよく分かる、算数・数学の授業の内容はよく分かる、英語の授業の内容はよく分かるというところの肯定的評価の割合ですが、これが全国、県に比べてやや下がっています。この授業がよく分かるということと、それぞれの教科の平均正答率の相関関係が出ております。やはり授業がよく分かるということは平均正答率にも表れているというところが見られます。

最後の9ページをご覧ください。

一番上は、ICTの活用の充実ということで、週1回以上タブレット端末を使っていますかという問いです。中学校に関しては、昨年度より30ポイント以上伸びて充実しているということでございますが、小学校は昨年度とあまり変わらない数字になっています。質問紙のデータを細かく見ると、同じクラスの中でも毎日使っている、毎時間使っていると回答している子もいれば、週に1回と答えている子もいたり、全く使っていない子もいたり、児童の捉えというところがまちまちであるというところもあると思われまます。学校調査紙で職員に対して行ったアンケートに対しては、週1回以上タブレットを使用していますかという問いに80%以上が利用していると回答していて、そこら辺も少し差があり、児童の捉えみたいところが少し影響しているというところなんです。

それから、平日の家庭学習時間は昨年度よりも中学校3年、小学校6年共にちょっと下がっているという状況です。

最後に、読書好きですが、中学校3年生については昨年度とほぼ同じ数でして、県、全国ともあまり変わらない数字ですが、小学校6年生が20ポイント下がっているのが気にかかるといったことでございます。

全国学力・学習状況調査の概要の説明です。以上です。

高市教育長

ありがとうございました。

では、この件につきまして、ご質問、コメント等ございましたらお願いいたします。

梅津委員

9ページのところですけども、平日の家庭学習時間が令和4年よりも減っているというところが気になりますし、読書が好きですかというところも小学生は特に極端に減っているところが気になります。国や県より3ポイント以上マイナスの△が多いところはこういうのに通じているのかなとも思ったりします。中学生のマイナスが多いのは結局中学になっても基礎的なものがしっかりできてなかったりするからかなとも思ったりしますので、小学校時代の読書とかそういう家庭学習とかっていう時間を少しでも多く実のあるものになっていけば違っていくと思います。今はやっているビリギャルの話の中に40も偏差値を上げた人は小学校4年の授業からやり直したということが載っていましたが、本当にそういうところがちゃんとできてればだんだんと中学校に進んでも勉強も楽しい方向に向かうのかなとも思いました。マイナスが多いのがとても気になりますし、そういうところをどのように改善すべきなのかなとも思います。

杉原参事

読書好きと平均正答率というのは相関関係がかなり強く出ているところで、昨年度のところでも非常に相関関係があるということで、

予算を今年度つけていただいているところでもあります。学びのサポーター、図書館司書の時間数を今年度も少し増やしていただいている状況でもありますので、この状況とかも見ながら、休み時間だけではなく授業時間も図書館活動みたいなところも進めていきたいと考えております。

以上です。

高市教育長

学習時間とか成績全般に△しかないじゃないかという指摘をいただいているのですが、それに対してはどうですか。

杉原参事

全国学力・学習状況調査自体が児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善というところをうたっているものでありますので、こういった分析をしっかりと、市内の学校に対して今年度以降国語、算数・数学、英語の授業がよく分かると答える生徒が増えるように、授業改善を図りながら結果を求めていきたいなというふうに考えています。今、校長会とも連携しながら、そういったプロジェクトなどを立ち上げて取り組んでいこうと考えているところでございます。

大庭委員

このたびの学力調査ですけども、学習内容は説明がありましたように調査の内容の中に教科に関する調査ということで、国語、算数・数学、英語とやっていますが、要するにこの学習内容を知っていなければ次のステップに行ったときに大変なことになるような内容とか、それから実際の生活の中で様々な場面で生かせるような知識をこのたびのそういう調査では上げているということで、極めて重要な内容だと思えました。そういったことを踏まえながら訂正とか、それから意見を申し上げさせてもらえたらと思っております。

まず、2ページ目に結果の概要というのが1番としてありますけども、この中のまず訂正をお願いしたいと思います。小6の国語、算数が全ての内容、領域で全国平均、県平均を下回ったとありますけども、算数については3ページをご覧いただきたいと思っておりますけども、領域の算数ですけども、島根県と益田市は43で、同じですから下回ってはいませんので、あそこの概略のところは訂正をしてもらえたらいいと思います。

それから、これは確認ですけども、中学3年生の数学のところです。これも、下の枠組みで無回答が多かった設問とその無回答率と全国との差という欄がありますけども、同じ内容が2つ続けて載っています。ただし、ポイントの数値が違うのですけども、これはどういったことなのかということをもた後でお聞きしたいと思っております。

それから、1か所ですけど、字の間違いがありますので、4ページの中学3年生の国語ですけども、下の表の左側ですけども、特に課題が見られた設問と正答率全国差という中のところですけども、あれの真ん中辺り、「レポートの下書きの一部について、分の一部」とありますけども、この分は文章の文じゃないかと思うのですけども、また訂正のほうをお願いしたいなと思います。

それでは、気がついたことを申し上げさせてもらいたいと思います。

まず、中学3年生の国語ですけども、これは無解答が多かった設問とその無回答率と全国との差という欄がありますけども、あそこが一番下、「現代語で書かれた竹取物語のどこがどのように工夫されているかについて、古典と比較して書く」これが28ポイントってあるのですけども、多分これは全員見た中の27%ということですか、28ポイントというのは。

そうです。

そうすると、数でいうと多分これは約102人になると思います。かなりの数が無回答っていうことになっておりますので、これは大変なことだなと思いました。つまり、自分の思ったこととか考えたことを自分の言葉で要領よく的確に表現する、そのような国語の力が不足しているのだと思います。まさに総合的な国語力が必要な問題だったのではないかと思います。

もちろんこれは小学校6年生も同じでして、やはり2ページの無回答の欄がありますけども、ここでも14ポイントほどの子供が、人数的には多分50人ぐらいの無回答なのかと思いますけども、やはりそういう読解力を基に表現力も必要となって総合的な力が試される、そういう国語の力の重要な部分が大きな課題になっていることが見受けられます。先ほどからありますけども、本を読むのが嫌いとか、そういったことは相関関係として考えられるかと思います。自分が理解したことを頭の中でしっかり咀嚼し、そしてそれを基に自分の考えを具体的に文字で表現する、これってすごい力なんです。国語だけではなくて、理科も数学も社会も全ての教科でそれをしなければいけない、そういう力だと思うんです。その部分がすごく欠落しているってことは、やはりこれから授業の在り方を考えていく上で大事にしてほしい部分でありますので、ご指摘をさせていただきました。

それらを踏まえ、中学3年生の英語ですけども、これもやはり無回答が多かった設問とその無回答率と全国との差という欄のところで、上から見ていきまして42ポイントというところ、約1

杉原参事  
大庭委員

53人、34ポイントというと124人、36ポイントが131人、それから18ポイントで66人ということで、調査を受けた子供の全体人数からするとかなりの割合の子が100人を超して無回答だったということが見受けられます。この現実をこれから厳しく捉えて、英語の教育にどう取り入れるかということをやっていくことがすごく重要じゃないかなと思います。特に英語の問題もやっぱり国語に通ずるところがありまして、自分の考えを文章で記述する、それがやっぱり英語の問題でもできないといけないと思うので、この分析結果を大事にさせていただいて、授業改善を図っていただけたらいいのではないかと考えております。

それから、質問紙のほうですけども、やっぱり小学校6年生は少し自己肯定感が課題かなということはこの結果から感じました。

それからあと、これは8ページですけども、国語の授業がよく分かるという、そういう質問紙がありましたけども、これについては小6も中3も共に授業改善が必要だと思いますが、特に小6のほうは大いに必要かなということを感じました。

それと、算数・数学の授業内容がよく分かるという質問がありますけども、これについては特に中学3年生ですけども、このアンケートでは75%と非常に高い結果が出ていますけども、このアンケートの結果が今回の学力調査と比べたときに少し乖離があるかなという部分があります。それはなぜなのだろうなということ疑問に感じました。

それから、英語の授業がよく分かるというアンケートの内容がありますけども、これは先ほど申し上げましたけども、授業改善、これを大いに図っていくということをしていただきたいなということはこのアンケート結果から感じました。

最後になりますけども、9ページのほう、ICT機器はどの程度活用したかというアンケートがありますが、中学3年生のほうは大いに改善されているなと思いましたが、これをしっかり学力の向上に反映したいなと感じました。

そして、平日の家庭学習時間、これにつきましては先ほどから梅津委員さんからの指摘もありましたけども、やはり学力と家庭学習は相関性があるということで、これはこれまでも課題でしたけども、今後もこれは大いなる課題だなというふうに感じました。

それから、繰り返しになりますけども、読書は好きですかというアンケート結果が出ていますけども、特に6年生につきましては読書に対する嫌悪、こういった部分が学力との相関性を十分に感じることができました。

以上です。

杉原参事

ご指摘ありがとうございます。修正が必要な2ページの算数に関する結果の概要の記述、それから4ページの「レポートの下書きの一部について、分の一部」というところは修正をさせていただきたいと思います。

それから、ご指摘がございました中学校3年生の数学の上の2つ目の無回答率が高い文章が同じということですが、同じような問題で3の倍数を求めるものがございまして、どちらが3でどちらが4だったかということが今分かりませんが、3の倍数と4の倍数という別々の問題ですので、修正をしたいと思います。

大庭委員

分かりました。

高市教育長

ほかの指摘に対してはどうでしょうか。

大庭委員

例えば英語なんかは指摘しましたように、無回答があまりにも多いのですが、全体的にどのように感じておられるのでしょうか。

杉原参事

無回答率が非常に高いのは気になるかなと思います。特に英語に関しては記述の問題の無回答率が高く、これは国語とか算数・数学でも同じようなことが言えて、自分の考えを書いたりするところが課題になっているように思います。先ほどもおっしゃいましたが、国語、算数、英語だけじゃなくて、これに関してはいろんな教科の中でもこういった力というのは非常に必要になってくるというところで、教科に限らず全校体制で、全教科でこういった力を伸ばすというところを授業改善というところで図っていききたいなと思っております。

高市教育長

質問用紙に対するコメントもいただいていたと思います。

杉原参事

はい。それは授業がよく分かるというところは授業改善というところで改善を図って行って、こういった数値のほうに反映をしていきたいなと思っております。学校の授業時間以外の家庭学習の時間について、これも毎年のように課題になっているところでございます。今の市教委のほうで家庭学習と授業時間の交換というところを各学校に伝えているところで、家庭学習したことを次の授業に生し、授業で培ったことがまたさらに家庭学習につながり、それがまた自身の学習につながるという家庭学習を広めていくという方法で、学校訪問等で指導しているところでございますので、そちらのほうを充実させていきたいなと思っております。

読書好きについては先ほどもございましたが、今予算、それから学校司書、サポーターさんの実数も増えておりますので、しっかり活動して読書好きが増えるように進めてまいりたいなと思っております。

以上です。

高市教育長

少し補足をさせていただきますと、今大庭委員からいわゆる家庭の学習時間とその学力の点、ご指摘をいただいたところでございます。こちらはこの分析結果のほうにはお示しはしていないところでございますけれども、内部で分析をしているところだと、実は家庭学習の時間とテストの結果っていうのには有意差が見られていないというのがここずっと益田市、少なくとも私が在籍している3年間は分析をしたのですが、大体平日なので一番マックスは多分3時間以上からです、2時間以上、1時間以上、30分以上、10分だったか全くなしぐらいの項目で聞いているのですけれども、その項目間において基本的に学力に有意な差が見えていないというのが益田市の状況でございます。今年唯一全く勉強していないという子との差は有意差としては出てきたのですが、これも今年が初めての結果でして、我々の経験則として勉強しなければ学力はあまり上がらないと基本的に思っているところですが、当我が市においてはそれが成立していない状況ではないかと見られている部分もございます。

ただしかしながら、学習時間が短いということはあまり好ましいことではないというところで、先ほど室長からもご説明がありましたが、一定程度の学習習慣という面から、きちっと家庭で学習してもらおうということっていうのは、昨年度以降ずっと働きかけをしてきているという状況でございます。

原田委員

昨年度より前、ここ数年ずっとそういう県や全国よりも低いという状況が続いているかと思うのですけれども、昨年度の結果を踏まえて今回の調査までに具体的にどのような対策をされていたのか、教えていただけますでしょうか。

杉原参事

昨年度の取組に関しては、全国学力・学習状況調査、それから島根県の学力調査だけじゃなくて、益田市独自の定着度調査というのを5月に行っておりまして、その定着度調査の結果からPDCAサイクルを回すという取組をしております。昨年度は定着度調査では、個人の学習の昨年度から今年度の結果の比較をして、伸びているというところに着目するテストでございまして、それで学級全体に伸びを見せた教員の授業を公開して、市内の教諭に見ていただきまして、その授業内容について考える機会を設けております。あと家庭学習に関しては小野地区、それから中西地区において小・中で連携をして家庭学習への取組を行っておりまして、その取組を紹介して市内の全域に広げようというところで昨年度は取り組んだところで

原田委員

家庭学習の面と授業の改善の面でこの1年対策されてきたという

ことですけれども、このプロジェクトチームを立ち上げられるに当たって、この調査結果でも先ほどからおっしゃっているように自分の意見がある条件の下で述べるのが苦手、自分の意見を言葉にするのが苦手という明確な課題が見えているのであれば、授業の改善はもちろんですけれど、必然的にそういう方面を改善するように進めていくべきだと思います。ただ授業の中だけでやると教員の方の負担ってというのは必然的に増えると思うので、朝の会ですとか終わりの会で自分の意見を述べる機会を毎日1人ずつ設けるなど、授業以外でもそういう場面をつくるように取り組んでいただきたいなというのが1つと、あと本を読むっていうのが、必然的に本を読まないといけない機会が、1つ夏休みの課題である読書感想文ではないかなと思うのですけれども、ここ数年読書感想文の課題が小学校でなくなってきたり頻度が高いとすごく感じていて、学校の状況もあるかと思うのですけれども、どうしても自分で本を読んで書かないといけない状況をつくるのも一つの手ではないかなと思います。

ざっくりとした対策を打つっていうのもいいのですが、具体的にピンポイントでこれをやる、検証してみるっていうことをもう少し取り組んでいただけたらと感じます。

杉原参事

授業改善に関しましては、先ほど原田委員がおっしゃっておられたとおりで、今学習の中で例えばある特定の子が自分の考えを述べているというシーンは結構いろんな学校で見られているのですけれども、各学級の児童・生徒全員が自分の考えを持って、その考えを表明して、他の友達とも意見を交流して自分の意見をもう一回推考してみたり、考え直してみたりという授業が少ないと感じています。言ったように、ある特定の子が発表をして全体で聞くというようなところが見られるので、やはり1つの授業の中で必ず30人なら30人全員が自分の意見を、中にはペアの学習やグループ学習をうまく授業の中に組み込んで表現するというようなところは必要かなと思っております。授業の中ではそういったところで自分の考えを述べる機会を増やしていこうと思っております。

それで、ご指摘されたとおり朝の会や掃除の反省会で、いろんな場面で自分の言葉として感想や考えみたいなことを述べる機会もございますので、そういったところを活用していきたいと考えています。

読書感想文に関しては、今各学校のほうで働き方改革を進めているところもあって、夏季休業明けの読書感想文の添削に大変時間がかかるので、各学校で読書感想文の課題が必須といったものではなくなくなっているという現状がどうもあるようです。ですが、先ほど言

われたように子どもたちに読書好きになってほしいというところもありますし、本を読んで自分の考えを持ち、それを文字で表すことはとても必要な経験とっております。国語の教科の内容にそういった単元もございますので、読書感想文で夏季休業中の取組もいいかもしれませんが、そういった日頃の授業のところでも改善ができるように努めていこうとっております。

齋藤委員

説明をいただきました。言わば単純集計で国と県との乖離を上げているのですが、この調査そのもの自体っていうのはやっぱり原因を追求していかなきゃいけないと思います。要因は何なのかっていうところをまずキャッチしないと、ただここに上げてあるような単純集計で単純に上がった、下がったっていう話だけでは不十分だと思います。それが1点です。

それからもう一つは、地域性みたいなものに違いがあるのかどうか、学校差があるのかどうか、そこが気にかかります。

それから、3つ目に上げるとすれば、ここで教育委員会としては何をここでキャッチしているのか、課題は何だったっていうことをしっかり掴んでいなければならないと思うのです。そのためにその原因や背景は何なのかっていうことをもう少し細かく、短時間で測るのは難しいにしても、せっかく調査結果があるわけですから、それから、意見、原因をしっかりピックアップして、方向性をどう具体化していく必要があると思います。

例えば教師を対象にするのか、校長だけなのか、あるいは親御さんたちをどうするのか、その辺がよく分からないのに手が打てないと思います。その他、県の調査もあり、国の調査もあります。これだけ調査をやっているながら、それが活かされていないっていう現状では、大変もったいないと感じます。もう少し原因をしっかりキャッチして、教育行政としての益田市の方向性をここに出してほしいです。間違いであるかないかは別として、こういう原因があるからこれをこういう風に改善していきたいという方向性がないと、ただ単純集計でポイントだけ示されたとしても、議論の対象には入りにくいように思います。それが全体的なものとして指摘させていただきます。

杉原参事

先ほども授業改善という話もありましたけども、調査結果を再度吟味し相関関係を見て、対応をまた改めて教育委員会のほうで報告させていただきたいと思います。

齋藤委員

ただ、調査は4月にやっていて、もう半年過ぎているわけです。やはり来年度に向けて手を打とうとしても、間もなく予算も考えなきゃいけない時期に入ってくるわけですから、分析するのはもっと

早くして、早めに手を打てるとよいと思います。

杉原参事

先ほどもございましたが、益田市のほうが益田市の定着度調査というものでPDC Aサイクルを回すということに今取り組んでいるところでございますが、益田市の調査のほうの結果が返ってくるのが遅く、9月25日に教育委員会に届くということでございまして、若干そこら辺で対応が遅れてしまうというところがあります。ただ、全国学力・学習状況調査の結果はもう出ておりますので、早めの対応を打つのは考えていきたいと、また授業改善、取組等を進めていきたいと思っております。

高市教育長

全国学テが確か7月末ぐらいに結果が返ってきたと思います。なるべく結果だけはまず早くお知らせをするという形です。昨年度もそうでしたけれども、全国学力・学習状況調査の結果は、また定着度調査の結果も踏まえて、もう少し深掘りした分析を踏まえてどういうふうに今後進めていくか、昨年度もお示しをしているところでございます。今年も同様にこの結果を定着度調査の結果も踏まえて、今後の改善策、また今年度から対応すべきところをまたまとめて整理した上で委員の皆様にお示しをし、また議論いただければと考えているところです。

齋藤委員

これは学校差って見られるのですか。

高市教育長

そこについては、文部科学省のほうからも学校間の差というのは出すなと言われていたところもあり、そのことについては表の場では発言は控えさせていただきたいと思えます。

齋藤委員

いや、そりゃ承知しているのですが、要因を調べるのは教育委員会にはできると思えますので、そこらを見てどこがどうっていう話ではなくて、この学校の特徴はこういう感じだからマイナスが少ないとか、プラスに上がっているとか、そのバックグラウンドを見たいと思えます。全体を最大公約数的に上げてみたところで、教育行政として手が打てるかどうかというところと少し疑問に感じます。

高市教育長

そういう意味では、教育委員会のほうでは学校ごとのデータっていうのを持っているところでございます。内部では学校ごとに分析をしているのは事実でございます。教育委員会としてもそれぞれの学校の違いを把握するとともに、各学校に学校のデータも返却をされているところでございますので、各校長のリーダーシップの下、自校についても分析をし、改善すべきところっていうのを適切に判断し、対応いただくということで考えているところでございます。

梅津委員

9ページです。ICTの活用の充実というところで、中3のところは令和4年よりか極端に令和5年は32ポイント高くなっているのですが、その原因として何かの働きかけがあつてのことなのか、

杉原参事

それか先生方の自主的なものなのか、聞いてみたいなと思いました。

益田市教育委員会としましては、新しい学びの推進協議会というものを毎年行っておりまして、これはICT、タブレット端末を1人1台ということになってきていますので、その活用を進めましょうということで、東京学芸大学の森本教授を招いて、年に何回か研修を行い、今の夏季休業明けには各校が1回ずつ公開授業としてそれについて研究協議を行っておりますので、そういったところの取組が少しずつ広がって活用につながっているかと考えております。今年度は東陽中学校と鎌手小学校、匹見小・中学校が推進校ということで特に取り組んでいて、それを市内の全小中学校に発信するという形で取り入れており、そういった効果が少し出ていると考えています。

大庭委員

少子・高齢化ということで、特に少子化です。高校受験の時に最近では推薦も選べるし、それから全体の生徒数が減っていますから、もちろん倍率も低いし、1倍を切る、そういったことも非常にケースとして多くなっています。そういった中で、中3ぐらいになりますと進路でそわそわするような1年間になり、そのそわそわ感を解決するためには勉強して自分が希望する高校に入らなければというような意識がすごく強かったように思うのですが、例えばかつて子供が多かった時代と比べたら、今は別に対して勉強しなくても入れるだろうという意識が強くなっているのではないかと思います。そういったところも今の学力との関わりの中で気になる点なんですけども、その辺の状況について、杉原参事は、どのようにお考えなのかお聞きしたいです。

それから、なぜこんな勉強をしなければならないのかというところなんです。小学生にしても中学生にしても、源氏物語を知らなくても飯は食っていけるじゃないかというようなことを思う子も中にはいると思います。学校へ行って勉強をするということに対する必要性について、学校現場としての対応がここ最近どうなっているのか、その状況がもし分かれば教えていただけませんか。

杉原参事

高校入試とか高校の定員みたいところは益田市教育委員会としてどうこうとかっていうところではございませんが、市内の一学年の子供の人数と、いわゆる各高校の定員数を見てみると、やはりそんなに競争しなくても入学ができるという状況は少なからずあると思っております。近隣の津和野や吉賀にも広げると、さらにそういった枠というのは非常に広く設けられていますので、受験に向けて学習をしようというのは少し以前に比べると、肌感覚ですけども、下がってきているのではないかなというところは推測できるところ

でございます。

それから、学習に対する興味関心みたいなところですけども、高校受験が全てというわけではないですけども、そこにつながるという意味では学習に対する意欲みたいなところは年々下がってきているというと思います。先ほども授業改善、授業改善と言っておりますが、学ぶことの楽しさを実感するのが一番かと思います。そういったことが実感できないと、毎日学習に向かえないと思っていますので、そういった意味でも授業改善をして今日の授業面白かったな、楽しかったな、また勉強したいなという意識を高めるようなそんな取組を見つけないかと考えております。

大庭委員

新しい発見があって、そうか、なるほど、分かったっていう、そういう喜びが次のジャンプアップにつながってくるのだと思います。ですから、学びの根源はそういった新しい発見、自分が今まで知らなかったことを知ることによる感動、そういったものが子どもだけでなく大人も同じようにあり、それがやっぱり学びに対する取組に継続的につながっていくものだと思います。

先ほど質問したのは、実は例えば高校受験、勉強してとにかくあの高校に入るのだという動機がないと、なかなか自分だけでは動機がないと勉強ができませんよね。必死で勉強して、それによってさまざまなことが分かっけいき、何か知らないうちに学力がついたということはあると思います。その学力は結局次のレベルの高校という学習を始めたときに、高校の学習の基盤になって、高校の学習内容を理解することにつながっていくと思います。ところが、さっき言ったように別に勉強しなくても人数も1倍を切っているからもう希望の高校に入れるだろうという安心感を持っている、そういう子供たちが若干いるのではないかという危惧感もありまして、質問させていただきました。

それで、教育長さんが足立区の教育委員会に行かれて、公的塾の中で100分間授業を子供たちが、連続で2コマですか、受けていらっしゃるからお聞きしました。多分都会には田舎と違って子供も多いですから、競争の意識がすごく働いていると思います。ですから、子供がたくさんいるとその中でもまれて、やらなかったら自分の夢は叶えられないということで必死感があると思うのですね。その辺も都会と田舎の違いがあるので、何とか子供が少なくとも中学校、あるいは高校、その先、そこまで自分が目を向けて、子供が何か必死感を持つようなそんな姿を出せるように、教育現場の先生方も時には語りかけて、世の中っていうのはこういう感じになっているとか、教員である先生方の経験を踏まえながら語っていただければ、

学習に対する意欲もまた違ってくるのではないかと考えておりますので、ぜひ自分の経験、そこを子供たちに伝えていただきたいなと思います。

以上です。

杉原参事

ありがとうございます。各学校での取組が充実していく必要があるかなと考えております。

それから、益田市教育委員会としまして中高一貫教育に取り組むところで、今益田東高校と連携をして、チラシも用意しましたが、ドリカム塾というのがあって、現在中学生、それから小学生対象に行っております。中学生は夜間、それから土曜日に益田東高校で英語、数学という取組をしておりますので、そういったところを活用しながら学習に向かう力といいますか、そういったところも育てていきたいと考えております。

高市教育長

今回なかなか衝撃的な結果だということですがけれども、ある意味学習指導要領等で求められている力っていうのは、昔から大きくは変わってないのですけれども、知識、技能、思考力、判断力、表現力、あとは学びに向かう力、人間性と、この3つの柱がいわゆる学力につながっていく、学校教育において育成をしないといけない力であると整理をしているところでございます。

そういう意味では、特に今回室長からも報告ございましたとおり、特に思考力、判断力、表現力をどうやって表現をしていくのかっていうところ、これは以前から益田市に限らず全国的に弱いところと言われていたところでございますけれども、今回こういう形できちっと評価をされ結果が出てきているという現状でございます。そういったところを踏まえ、学校での授業改善っていうのを不断に進めていくということで教育委員会としても各学校に指導、支援をしていきたいと考えております。

また、対応策につきましては、先ほども申し上げたとおり、また改めて整理をしたところでご報告をさせていただきたいと考えております。

それでは、この件についてよろしいでしょうか。

教育委員

=全員了承=

高市教育長

それでは、以上をもちまして定例会を終わります。

次回は10月31日に定例教育委員会を開催いたします。よろしくお願いたします。それでは以上で定例教育委員会を終了いたします。ありがとうございました。

＝終了時間 16時30分＝